

以て東亞兩大國の眞の和平の爲めに貢獻せんが爲に一身の犠牲は願ふ處で無い、勇躍率先してその任に赴き技術奉公の任に當らんとしふ事であつた。

獨り三浦氏のみならず、共に北支に赴く四十數氏の誰も此の決意の下に敢然立つた事を知り、何共言へぬ敬虔の念に打たれた事である。

東洋に君臨する日本、總ては世界を指導すべき大日本帝國の臣民たらん程の者、凡てが此の意氣、此の熱誠有る可

三浦七郎氏を送る

きである。徒らに躊躇逡巡、首鼠兩端なる者の如きは敢て難局日本を背負ふに足らず、吾人の斷じて組せざる處、北支遠征の勇士等希くは自重自愛以て技術奉公の大任を完ふせよ。至囑。

私は同志を代表して御挨拶を申上る任では無い、只三浦氏の意氣に感じ敢て此の紙上を借りて此の蕪辭を呈した次第である。匿名の儘であることなども平に御寛恕に預り度い。

一 記 者

此度舉國總動員の一態様であり且つ、日支親善工作の表

現として、我が土木陣營からも、北支臨時政府へ平和の戰士を見送るの機會が到來した。誠に千載に輝く欣快事である。

それは現に内務省下關土木出張所長の職に在る三浦七郎氏を主班とする一行が、某派遣軍特務部付として赴任せられた事である。三浦氏は何れは新政府の建設總署の技監となられる筈であり、其の他の人々も等しく同政府の夫々の要職に付かれるものと思ふ。

一行は内務省及府縣廳に於ける壯年組中の、卓越有能の代表的士であり、所謂ピカ一の連中であることは敢て喋々する迄もなく、別項の顔觸れで充分判る。そして直ちに道路、河川、港灣の重要任務を執掌せらるゝことゝなつたのである。

曩には田淵仙臺所長を某重要地點に送り、幾何もなくして、今亦三浦氏一行の壯途を見ることは、眞に我國土木界としての嚆矢であり先達である。併も其の任務が假令黎明工作の爲の使命とは云ひ、一旦祖國を後にするからには、固より其の志は泰山の如くでも、其の身は鴻毛の輕きに似てゐると云へやう。治安の維持に付ても皇軍の所在地では充分ならんも、其の他各地には暴戾な匪賊や、不信な敢殘

兵の惡戯も輕視出來ないだらうし、氣候や風土や、食物や住居や等々を思索するに至らば、初代開拓使としての辛慘勞苦は萬人の想像以上であらう。



三浦氏は筆にする迄もなく、我國に於ける道路の大家であり、橋梁の權威者である。全國の國、府縣道の橋梁で手を閲ないものは寧ろ稀れと云ふべきであらう。國道國營主義の政策が確立したのも、殊に直轄國道が繼續費の制度に頭を出し掛けたのも、亦路政界としての一大收穫である。

世界に誇る關門國道の調査に着手したのも、また現に隧道敢行を前提として、盛んに試掘中のものも何れもが三浦氏が土木局又は下關在任中のことである。其の獨創力には、實に敬服に堪えないものがある。

道路改良會としては其の誕生の時から並み／＼ならぬ恩人であることは、世間周知のことである。本會が今や嚴然たる存在として斯界に君臨するに至つたのも、氏の努力

に負ふ所が極めて多い。

近時は河川港灣等にもナカ／＼造詣が深い。大學の實習が臺灣の花蓮港であり、卒業の論文が港灣であり、役人の振出が北海道廳で、前後七ヶ年間も現場に在勤せられたのであるから、尤もの事と充分頷けるが、従前にも増して勉學に勤しんでゐられる努力の賜物であることは最も畏敬すべき點である。



此の三浦さんにも嘗ては死線を脱したと云ふ悲壯な話題がある。確か大正七年の三月頃望蘭土木事務所長時代に、膽振の國の白老から山奥へ向つて八里の間の路線選定に出かけた。御承知の通り北海道では雪上を踏査するに非ざれば良好なる路線を得難いので、數人の技術官と部落民を十人許りを道案内として出發した。漸く峠に差しかゝつた時、猛烈なる大吹雪に遭遇して、まるで霧の中へ迷ひ込んだ様になつた。携帯した五萬分の一の地圖なんかでは、テンで

方角が見當付かない。折柄夕闇は迫るし、零下何度といふ寒氣で進退全く谷まつてしまつた。最早死を俟つより外に仕方がない。一同は白樺を削り各自の名前を刻して末世に残す迄になつたらしい。處が稍々すると、かすかに川のセ、ラギの音が聞ゆるではないか。川を傳つて行けばキツト部落へ出るに違ひないといふ譯で、河中を徒涉しつゝ進んで行くと、夜半に至つて辛ふじて部落へ辿り付いた。安堵



三浦七郎氏

といふか、それこそホントニに命拾ひをしたのである。其の凄慘さは今でも眼底に残つて居るらしい。此時はまだ獨身で、紅顔の美青年七郎さんも、咄嗟や北海道の土と化したかも知れなかつたのである。がお蔭で今では立派な道路が開通して居る。確かに此の頃から道路に深い縁が出来た様だ。

情味の豊かさとは、むしろ人に人を懐かしがらしめる。

顔色は飽くまで色白とは云へぬ處に特色がある。嘗て外遊のとき、其の顔立ちからして、暹羅の貴族と間違へられた位だから無理からぬことではあるが、何年経つても依然として變りがない。頭髮も昔の儘だ。御本尊は「親父の代から禿頭」といふて居るから、大した苦痛でもないらしい。

然し何時かも夕食の時に、箸の中から出た辻占が「地位も名譽もお金も要らぬ、禿げた頭に毛が欲しい」と萬更ら本人の氣持ちに合はぬでもなからうと、萬座哄笑したことがある。酒は強いといふ程度に飲んだことはないが、相當耐久力がある。そして、相手方をして、トテモ賑やかに歡笑せしめる。其の笑聲は一種獨特で随分遠方からでも悟れる位である。歌は、興が到ればやるが、夫れも豪華節度が關の山で其の他は大したものではない。寧ろ人に歌はして聴くといふ方であらう。眼付にはとても茶眼氣があり、口元は至つて引締つて居るのと相俟つて、其の明朗性と溫

張り切り方と獨創力とは他の追従を許さない。今度も向ふへ行けば、恐らく素ツ裸か大黄河と取組む意氣であらう。

土木局から鞍替えして僅か一年餘りの關門生活ではあるが、同方面の開發には幾肌も抜いて今では關門地方の大恩人となり濟ました。殊に部内に對しては大いに清氣を吹込んで潑瀾たる氣風を植付けた。またその一舉手一投足が、悉く精神的で飽くまで眞理の探究であり、道理の求明である。其處に微塵も無理があつたり無駄があるといふことは愚か、一些事と雖も、決して忽緒に付したことがない机張面さである。

東京在住の初めは、スキーに熱中して居られたが方今では先づゴルフである。これは伸々身を入れてやつて居られる。「人間は緊張ばかりでは能率が上らぬ」といふのが哲

學であり體驗である。だから風雨に憶せず土曜日曜は日參

して健康の維持に努めて居られる。三浦さんの廻つた跡の

グリーンには點々と眞土が顔を出す。といふ様な酷評もあ

るが、これは番茶話で實際は相當の腕前らしい。圍碁や、

玉突も自信があるらしいが、大して積極的な健康法でもな

いと云ふ建前から、此頃は休業の状態である。趣味と云ひ

得るかどうか知らぬが、出勤前には缺かさず散歩を續けて

居られる。恐らく其の間に鋭い觀察と革新的な創造が生れ

るのであらう。



斯様に三浦氏は、非常な熱の人であり、信念の人であり、

其の偉大な實行力。何事でも爲し遂げる迫力を持つ腹の出

來た人である。

由來俊秀の士林の如くに在りと云ふ内務省系統の土木技

術官の中から、特に選まれて敢然赴任せられる、其の意氣

と至情とは愛國の熱魂の發露であり、世界に誇る大和魂の

精華である。

赴任の曉は、帝國政府の不動の方針たる鞏固なる東洋の

全體計畫の下に、雄大豪宕の策を樹てられるであらう。正

に第一人者として當を得た人選である。

ドウゾ日本土木の名譽の爲、東亞永遠の福祉建設の爲の

礎石として、切に御健康を祈つてやまない。

因に三浦氏は五月二十日福岡縣雁ノ巣飛行場から飛行機

で赴任せられ同日無事任地へ着かれた。

出發に際し左の電報を寄せられた。

「母國を去るに臨み各位の御健康を祈る」。福岡飛行場

三浦七郎

×

×

×

×